

AUTOBACS SUPER GT 2019 series

大会名：2019 AUTOBACS SUPER GT Round.1 OAKYAMA GT 300km RACE

開催サーキット：岡山国際サーキット

予選：4/13(土) 晴れ

決勝：4/14(日) 雨

レースレポート

岡山国際サーキット・富士スピードウェイでの公式テストを無事終えた ModuloKENWOOD NSX GT3 エボリューションの初戦は岡山国際サーキット。予選時の天候は雲を探すのが難しいほどスッキリとした晴天。新しいボディカラーと Modulo ホイールが太陽に照らされ光を反射しながらピットを出ていく。「平成」最後の SUPER GT が幕を開けた。

公式練習

4/13(土) 8:50~10:15 天候：晴れ コース：ドライ 気温 13℃ 路面温度 17℃

ドライ状態で迎えた練習走行、まずステアリングを握ったのは道上選手。朝は気温が 6℃ と低いなかでゲートオープンした為に路面温度の上昇率に不安があったものの、走行が始まる頃には気持ちのいい快晴の下スタートした。マシンは 9:03 にピットを飛び出した。エボリューションモデルとなって、進化した NSXGT3 の空力性能と、道上選手のドライビングのすり合わせを行っていく。その後順調に周回を重ね大津選手にドライバーを変更した。マシン後部の跳ねに対応しながら、1' 26.072 の 11 番手タイムをマークしながら走行を続ける。GT300 の専有走行時刻になり、その後もセッション終了まで刻一刻と悪化する路面状況に的確にアジャストしながらマシン、ドライバー共に予選へ向けた最終調整を終えた。

ベストタイム： 道上龍選手 01' 26.204 大津弘樹選手 01' 26.072

ノックダウン予選 Q1・Q2

4/13(土) 14:45~14:55 天候：晴れ コース：ドライ 気温 17℃ 路面温度 20℃

Q1 ではグループ A・B の 2 つに分かれて走行し、A・B それぞれ上位 8 位まで、合計 16 台が Q2 進出となる。A グループで走行することとなった Modulo KENWOOD NSXGT3 は大津選手に託された。セッションが始まり即コースインしたマシンは、クリアラップのタイミングを計ると同時に、タイヤのグリップ低下、残り時間との激しいせめぎあいの中、1' 26.128 の A グループ 5 番手タイムで、納得のいく結果ではないものの、順調に Q1 を突破した。

ベストタイム：大津弘樹選手 1' 26.128

ノックダウン予選 Q2

4/13(土) 15:38~15:48 天候：晴れ コース：ドライ 気温 17℃ 路面温度 21℃

Q2 では道上選手が担当ドライバーとなり、大津選手と同じくセッション開始と同時に飛び出した。1' 26.103 と大津選手より 0.025 秒速いタイムをマークしたが結果悔しく 13 番手タイムとなってしまった。しかしながら両ドライバー共に確実に体感できる程に NSXGT3 エボの進化を感じ取っており、課題は残るものの決勝への闘争心を燃やし続けたまま 13 日の走行を終えた。

ベストタイム：道上龍選手 1' 26.103

決勝

4/14(日) 14:30~(82Lap) 天候：雨 コース：ウェット 気温 12℃ 路面温度 12℃

天候はあいにくの雨。朝の段階での天気予報では決勝レース開始前に小降りになると予想されていた雨が、レース開始時刻になっても雨量の変動が激しく、各チームタイヤチョイスに悩まされた。観客も雨天の中グランドスタンドに埋め尽くされんばかりで、開幕戦の幕開けを待ち続けていた。

14:30 に開幕戦がスタート。しかしながら路面状態も良好とはいえない為、安全を考慮した上で SC(セーフティーカー)スタートとなった。3 週の SC スタートの後、各車一斉にスタート。直後の 1 コーナーで GT300 の 2 台がクラッシュとなり、再度 SC が導入され 11 周目に再スタートが切られる。しかし 13 周目、モス S コーナーで 3 台の GT300 が絡む大クラッシュが発生、辺り一面にパーツが散乱しレースは赤旗(一時中断)となった。15:45 にレースは再度 SC 先導によるレース再開となったが、24 周目に 1 コーナーで GT500 の 2 台が接触し、そのうち 1 台が停車。4 回目の SC 導入となった。さらに SC 中に GT300 の車両がクラッシュしてしまい 2 度目の赤旗が提示される。中断中に雨がその勢いを増し始め、主催者判断により 16:51 にレースの中止が決定された。レースの順位は最後の SC 導入の 1 周前の周回時の順位が反映され、ModuloKENWOOD NSX GT3 は 10 位と告げられた。しかし後に他車のペナルティによる繰り上げで順位が 9 位で確定となり、大波乱の開幕戦を車両・ドライバー共に無事に終える事が出来た。

ベストタイム：道上龍選手 1' 39.298

監督・ドライバーコメント

チョン・ヨンフン監督：レースは予選までアンダーステアに悩まされ、決勝時に雨天でのレースとなった為、大幅なセッティング変更を施してレースに臨みました。20 分間のウォームアップ走行でタイヤと車両バランスの確認を行った事で、大雨の天候と相まってスタート時のタイヤチョイスは功を奏していたと思います。しかしながら幾度とない赤旗中断や SC 導入、最終的にレース中止となってしまいましたが、クラッシュせず終わって何よりだと感じています。次回の Rd.2 富士では、NSX のストレートスピードを活かしてレースに臨みたいと思います。

道上選手：レース中のマシンのフィーリングは雨の中でも良好で、中段集団に居ながらも離される事がなく好感触は掴めていました。しかしながらレース中盤のクラッシュや SC 導入や赤旗中断など

の影響で、他車含めタイヤの温まりが十分ではない為に以後連続してクラッシュが発生したと思っています。公式テストでの大津選手からのレインタイヤのフィーリングを活かしての今回のレースのタイヤチョイスでしたが、結果を出す前にレースが中止になってしまっていて残念に感じています。

大津選手：チームの戦略も今回のレースを通して各段に引き出しが増えて、このままレースが継続されていたとしたら、ポジションアップの可能性はあったと思っています。次戦の富士はNSXの得意なコースではあるので、より良い状態で次戦を迎えられると思っています。

